

松 考

本 古

市 博

立 物

館

Matsumoto City Museum of Archaeology

展示解説



目 次

縄文人のマツリと人々の願い	2
縄文時代中期の土器	3
縄文時代中期～晩期のムラ エリ穴遺跡	5
弥生時代のはじまり	7
古墳時代の幕開け 弘法山古墳	9
古墳時代の松本平	11
古代の開発	13
地域中山の考古学	15
縄文時代の造形の美	16
図版一覧	17

凡例

- 1 本書は松本市立考古博物館常設展示解説として作成しました。
- 2 本図録と展示の構成は一部異なる場合があります。
また掲載写真は展示品すべてではありません。
- 3 掲載写真は宮嶋 洋一氏が撮影しました。
また、本文執筆は学芸員 廣田 早和子が行い、松本市立博物館
学芸員 竹原 学、松本市教育委員会 直井 雅尚の協力を得ました。

はじめに

展示室に一歩足を踏み入ると、縄文時代のマツリの道具、土偶と石棒があなたを考古学の世界へと誘いません。市内の遺跡では、私たちの祖先の使った様々な道具が見つかります。彼らはどんな生活を送ったのでしょうか。縄文時代から奈良・平安時代まで、各時代ごとにテーマを設けて、市内の歴史と人々の生活をご紹介します。

縄文のマツリと人々の願ひ



1. 土偶 坪ノ内遺跡



2. 土偶 牛の川遺跡



3. 土偶 女鳥羽川遺跡

縄文時代、自然の恵みに依存した生活の中で人々は、様々なマツリを行っていました。遺跡からはこの時代に特有の土偶と石棒が出土します。土偶の多くは女性の姿をし、妊娠した様子のものもあります。ほとんどが壊れて見つかることから、壊されて役目を終えたようです。

女性的な土偶に対して、石棒は男性性器を象徴しています。中期には大型のものが作られました。後・晩期には小型化し、つくりの精巧なものへと変わります。

土偶は植物の豊かな恵みを願う女性的なマツリに、石棒は動物など山の恵みを願う男性的なマツリに使われたと考えられています。

縄文時代中期の土器



7. 唐草文系土器(深鉢) 一ツ家遺跡



4. 釣手土器 塚田遺跡



8. ミニチュア土器と土鈴 一ツ家遺跡・坪ノ内遺跡



6. 有孔罎付土器 一ツ家遺跡



5. 勝坂式土器(深鉢) 坪ノ内遺跡

縄文時代の松本平

今から一万二〇〇〇年前

長く寒い氷河期が終わりにさしかかった頃に、土器や弓矢の発明といった技術革新によって、それまでの旧石器文化とは一線を画した縄文文化が成立しました。

長野県は縄文文化の栄えた地域で、温暖な気候に支えられて人口が増加し、中期にはピークを迎えます。土器の出現によって、人々は食べ物を煮炊きし、植物を食材に幅広く利用できるようになりました。また、弓矢は動きの素早いイノシシ・ニホンシカなどを捕らえるのに適していました。

人々の生活

食生活が安定し、人々は竪穴式住居を建てて定住するようになりました。松本平では、鉢伏山を始めとする東山麓一帯に大きなムラが次々と作られます。人々は森に近い、沢沿いの丘陵や台地を生活の場として好

んだようです。沢では魚も捕ったのでしょ。漁網の石錘が遺跡からは出土しません。

安曇野市明科北村遺跡の縄文人たちは、ドングリやクルミなどの堅果類を主食としていたことが分かっています。堅果類にはアクの強いものも多く、縄文土器はアク抜きに重要な役割を果たしたと考えられます。松本市域でも、北村人と同様の生活を送っていたのでしょ。

縄文土器の用途

縄文土器は前期以降、盛り付け用の浅鉢も使われましたが、全期間を通じて主流だったのが深鉢です。深鉢は煮炊き、蒸し、貯蔵などあらゆる目的で使われました。

縄文時代は約一万年間続いたので、その間に時期や地域によって形や文様が様々に変化し、その特徴は私たちに時代や地域をさぐるための目安を与えてくれています。



13. 焼町土器(深鉢) 小池遺跡



10. 打製石斧と磨製石斧
南中島遺跡



9. 石皿とすり石
坪ノ内遺跡



12. 石鏃と石錘
雨堀遺跡・小池遺跡・
一ツ家遺跡



11. 大珠 中山出土

縄文時代中期の土器
縄文土器の特徴は器面を飾る文様の数々です。装飾性を重視した文様は、共同体の仲間意識や祖先とのつながりを示す、精神的な役割があつたとも考えられています。

特に縄文文化の隆盛した中期には、土器は大型化し、豪華で複雑な文様が施されました。中期前半と後半とは土器の様子は異なり、前半には複雑な文様の焼町土器、勝坂式土器が見られます。

唐草文系土器の文化
一方、後半には松本平から諏訪湖周辺、上伊那地方で独特の土器の文化が発達しました。唐草文系土器は樽形の器形をし、植物質の食料を大量に煮炊きするのに適していました。遺跡からは根菜類などを掘る打製石斧、木の実をつぶす石皿やすり石が多く見つかります。また、人々の間では



展示風景

埋甕の風習や、土偶を使ったマツリなどの習慣もありました。埋甕は乳児の胎盤を納めた甕を家の入口などに埋め、子の健康を願ったものであるとする説もあります。

縄文文化を彩る遺物
大珠(首飾り)や耳飾りなどのアクセサリーや、土偶、石棒、土鈴、ミニチュア土器などマツリの道具が中期の縄文文化を彩っています。土鈴は中に石や粘土の玉が入っており、コロコロと音がし、縄文人の楽器と言われます。また、口に孔の開いた有孔罎付土器は大鼓説・酒造具説が考えられています。これらの特殊な道具は縄文文化の成熟を示すものと言えるでしょう。

縄文時代中期～晩期のムラ

エリ穴遺跡

エリ穴遺跡は今から四五〇〇年前～二三〇〇年前の縄文時代中期から後期に栄えた集落遺跡です。東山山麓に端を発する塩沢川と舟沢川に挟まれた狭い台地上にありました。一九九五年の発掘調査では、住居やゴミ捨て場、祭祀の後がみつかりました。

当時気候は寒冷化し、集落の規模は縮小し、数は減少の一途をたどりました。生活の環境が悪化し、人口が減っていくなかエリ穴ムラは約二〇〇〇年間にわたって存続しました。

長い間人が住み続けたからでしょう。ゴミ捨て場からはおびただしい量の遺物が見つかりました。土器や石器の生活の道具のほかに、アクセサリー類、マツリや祈りに用いた土偶や石棒などが多く出土しています。



14. 人面付土版 エリ穴遺跡



15. 遮光器土偶 エリ穴遺跡



16. 土偶 エリ穴遺跡



17. 土器 エリ穴遺跡



18. 石剣・石刀 エリ穴遺跡

ムラの生活

一時期にムラにあった家は二、三軒、住人はせいぜい一〇数人ほどだったでしょう。彼らは磨製石斧で切り出した木材で、竪穴式住居を建てて住んでいました。大量の石鏃や打製石斧、すり石、石錘が見つかっており、生活は狩りに重点を置き、時には魚を捕りながらも、

依然として植物採集が重要だったことを示しています。

さまざまなマツリ

厳しい環境ゆえ、自然の恵みを期待してマツリや祈りが行われ、石を配した祭祀遺構や土偶・土版・石棒・石剣・石刀が多く見つかっています。中でも人面付土版は女性の全身を表現した珍しい例です。護符の役目を果た

したとされています。遮光

器土偶は、東北地方の亀ヶ岡文化に特有の土偶です。

東北地方や関東地方の土器も見つかっており、人々の活発な交流をうかがうことができます。

大量に出土した耳飾り

土製耳飾りは縄文時代後・晩期に東日本で流行したアケセサリーの一つです。文

様や大きさは様々で、徐々に大きさを変える儀礼の道具だったと考えられます。

エリ穴遺跡では約二五〇〇点の土製耳飾りが見つかり、全国的にも屈指の出土量です。エリ穴遺跡は生活の場であると同時に、周辺のムラから人が集まってマツリを行った地域の拠点的なムラだったと考えられます。



エリ穴ムラの模型



19. 土製耳飾り エリ穴遺跡

弥生時代の始まりと弥生文化の定着

弥生時代、米作りが大陸からもたらされ、全国各地に広がりました。松本市内からは水田跡は見つかっていませんが、稲を刈る石包丁や炭化米が出土しており、米を作っていたことが明らかになっています。

弥生時代のはじまり

市内で弥生時代が始まった頃、人々は米作りに適した湿地を求めて移住していった。針塚遺跡はその頃の遺跡です。東日本に特有の再葬墓が発見されました。再葬墓は埋葬した死者の骨を土器に納めて再び埋葬した墓です。墓近くの焚火跡に遠賀川式土器が置かれていました。

遠賀川式土器は弥生時代前期に九州から東海地方まで分布した、弥生文化到達の目安となる土器です。再葬墓に使用された土器には東海地方の土器の影響を受けたものが含まれ、弥生文化は東海地方を経由して松本にもたらされたことが分ります。

針塚遺跡の発掘によって

長野県の弥生時代の始まりは前期まで遡ることが判明しました。

弥生文化の開花

中期の終わり頃になると、人々は大きな湿地の広がる現市街地周辺に稲作の適地を見つけ、本格的な稲作文化が開きました。

現在、市内では水田跡は確認されていませんが、稲跡のついた土器や稲穂を刈る石包丁など稲作を行っていた証拠が見つかっています。この頃、ようやく長期間継続する大きなムラが形成されるようになります。百瀬遺跡は中期から後期にかけての大きなムラの遺跡の一つです。昭和二十六年（一九五二）に発掘され、



21. 刳痕のある土器と石包丁 宮渕本村遺跡



22. 磨製石鏃 竹淵遺跡



20. 遠賀川式土器 針塚遺跡



26. 鉄鏃 宮渕本村遺跡



25. 石剣と石戈
宮渕本村遺跡・平畑遺跡



24. 大型蛤刃石斧 宮渕本村遺跡

松本平で初めて弥生時代の住居跡が発見されました。住居跡からは中期の甕、壺、高坏、鉢など生活に必要な器がまとまって見つかりました。弥生時代以降、器の種類が増え、煮炊き・貯蓄・盛り付けと用途に応じて形を作り分けるようになりました。

百瀬遺跡で見つかった土器は「百瀬式土器」と名づけられ、長野県の弥生土器研究の基準の一つとなっています。

大陸からきた新しい文化

米作りの技術とともに、大陸からは新しい磨製石器（石包丁や伐採用の大型蛤刃石斧など）や金属器（青銅器と鉄器）、織物の技術がもたらされました。磨製石器は市内でも多く出土していますが、金属器はわずしか見つかっていません。

青銅器は当初は実用品でしたが、次第に大型化して祭器へと変貌しました。宮渕

本村遺跡では銅鐸の一部が見つかっています。銅鐸は青銅製の釣り鐘で豊かな実りを願うマツリに使われたと考えられています。境窪遺跡では布目痕のある土器や紡錘車出土しています。糸を紡ぎ、織る技術によって人々の衣服も大きく変化したことでしょう。

稲作のもたらした階層社会

一方で稲作はムラや人々の間に貧富の差を生じさせ、ムラには権力をもつ指導者が現れて社会は階層化し、土地や水をめぐるムラ同士の争いも起こるようになりました。石剣・石戈は武器である銅剣・銅戈を真似た祭器で、出土点数はわずかです。支配者の権力を示すものだったのでしょう。戦いの道具と言われる磨製石鏃が市内のムラでも製作されていました。

ムラはやがてまとまりを持ち、クニへと発展しました。



27. 銅鐸 宮渕本村遺跡



28. 管玉 宮渕本村遺跡



23. 百瀬式土器一括 百瀬遺跡

古墳時代の墓開け — 弘法山古墳 —



30. ガラス小玉 弘法山古墳



29. 鏡 弘法山古墳

国史跡 弘法山古墳

三世紀後半から七世紀末で、大規模な墳丘を持つ豪族の墓・古墳が全国で造られました。

弘法山古墳は全長六〇メートルを超す松本市内最大の前方後方墳です。三世紀末、古墳時代の初めに造られた東日本でも最古級の古墳の一つです。中山丘陵の尾根の先端に位置し、墳頂部からは松本平を一望できます。

遺体を納めた竪穴式の礫槨の内部には、鉄器(剣・鏃・工具)・青銅器(鏡・鏃)・ガラス小玉が副葬され、被葬者の力の強さが伺えます。

被葬者の人物像

礫槨の上に供えられた土器には、手焙形土器や東海地方西部に特有のパレス式土器が含まれ、被葬者は東海地方の勢力と関係の強い人物だったと考えられます。また、弘法山古墳に對峙



31. 弘法山古墳出土土器一括



上空から見た弘法山古墳



33. 鉄剣・鉄鏃・ヤリガンナ・鉄斧 弘法山古墳



34. 中山36号古墳の土器と鏡 中山36号古墳

する棺護山に築かれた中山
三六号古墳からは、四世紀
前半の土器や、弘法山古墳
と同系統の銅鏡が出土して
います。土器の年代からも
弘法山古墳の被葬者の後継
者の墓と位置づけられてい
ます。

弘法山古墳の意義

当時、大王を中心としたヤ
マト政権は地方の豪族と手
を結び、国造りを進めていま
した。彼らの関係を示すのが
前方後円墳や三角縁神獸鏡

をはじめとする鏡です。長野
県内では、四世紀の前方後円
墳は善光寺平に多く、北信濃
がシナノ支配の中心だった
のでしよう。

弥生時代後期に遡ると、南
信濃の天竜川流域には東海
系の土器が流入していました。
弘法山古墳の存在はヤマト
政権によるシナノ支配より
も前に、いち早く東海地方の
勢力が松本や天竜川流域へ
勢力拡大を図っていたこと
を示す証拠と言えます。



32. 銅鏃 弘法山古墳



37. 水鳥形埴輪 平田里1号古墳



35. 金銅製天冠 桜ヶ丘古墳



36. 短甲・衝角付冑 桜ヶ丘古墳

市域における
古墳の変遷一

古墳時代前期、弘法山古墳と中山三六号墳に続く古墳は、現在確認されていません。中期には城山、浅間、里山辺、出川など開発が進んだ地域に古墳が造られました。

桜ヶ丘古墳

浅間温泉にある桜ヶ丘古墳は松本市を代表する古墳の一つです。短甲・衝角付冑・鉄剣といった武器・武具に加え、金銅製天冠が副葬され、中期(五世紀後半)の古墳であると判明しました。短甲や衝角付冑は県内でも出土例は少なく、天冠は県内で桜ヶ丘古墳が唯一の事例です。天冠は一般にヤマト政権から地方豪族へ与えられた品と言われ、古墳の被葬者がいかに有力だったかを考えさせます。

墓制の変化

古墳は主に前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳の四種類があります。前期には前方後円墳と前方後方墳が

造られました。次第に前方後円墳が主流になり、大型化します。後期には王に限らず、有力者たちが小型の古墳を造り、古墳群が形成されました。内部構造も個人用の竪穴式石室が、後期以降、家族を追葬できる横穴式石室へと移行します。

王(被葬者)の人物像

副葬品の種類や組合せにも変化が見られます。前期の鏡・玉類などは、中期以降の武器・武具・工具・玉類・馬具へ変わり、王の性格が呪術的な人物から武人的な人物へ変わったことを示しています。

市域における

古墳の変遷二

後期には入山辺の南方古墳など大きな横穴式石室を持つ古墳が築かれ、中山には小さな古墳が盛んに造られます。中山古墳群では多くの馬具が出土しており、奈良・平安時代の埴原の牧につながらる馬飼いの集団の存在が推測されています。



41. 前期の土師器 向畑遺跡



42. 須恵器 平田里古墳



43. 後期の土師器 出川南遺跡

展示風景



39. 勾玉 南方古墳



38. 壺鐙 南方古墳



40. 杏葉と雲珠 南方古墳

終末期（七、八世紀）、畿内では古墳築造は終焉を迎えます。しかし市内では新村の安塚、秋葉原古墳群（八世紀）が見られます。これらは奈良井川西岸域の開発を進めた人々の墓と考えられます。古墳時代のムラと人々の生活

前期に小さく散在していたムラは、中期になると水田に適した湿地の周りに大きく作られるようになりました。中期に畿内の生活用具や習慣が

東日本にも広がり、竪穴式住居にカマドが作られるようになります。画一的な土師器が全国的に普及し、弥生時代に見られた地域色は次第に失われていきました。

後期には、灌漑技術の進歩によつて開発が進み、各地に大きなムラが次々と現れました。家や倉庫として使われた、柱立ちの掘立柱建物の数も急に増え始めます。

須恵器は中期（五世紀）に

朝鮮半島から伝えられた新しい焼き物です。専門の職人によつて窯で焼かれ、硬質で灰色をしています。古墳時代においては高級品で、多くは古墳の副葬品として使われました。

出川の平田里一号古墳では、埋葬に伴つて墳丘や周溝に供えられた高杯・杯壺・甕のセットが見つかっています。市内では珍しく埴輪が配された古墳として注目されます。

古代の開墾



44. 煮る・食べる・蓄える 下神遺跡・南栗遺跡・原畑遺跡ほか

国府と松本
奈良時代、天皇を中心とした国づくりが進み、律令による地方統治が行われま

した。
古代の松本は筑摩郡と呼ばれ平安時代の初めに、小県から国府が移されてからは信濃国の政治の中心として栄えました。市域には政治的な情報伝達路(駅路)の一つであった、東山道が通っていました。

松本平の須恵器生産

古墳時代に朝鮮半島経由で伝来した須恵器は、当初、有力者の高級品として作られました。各地で生産が始まった奈良時代には、須恵器は官衙などに供給される器となり、ムラでも日常の器として使用されるようになります。八世紀後半から岡田地区などの山間部で生産が始まり、次第に松本平の各ムラへと供給されました。

須恵器生産には多くの専門職人と燃料となる大量の薪を必要とし、有力者や国府など経済力のある大きな組織が経営を行っていたことがわかります。

市内の開墾と有力者

灌漑技術の向上によって、七世紀後半から奈良井川西岸域にも大規模なムラが形成され始め、開墾の波は市内全域に広がり、平安時代の初めに最も活発になりました。有力者たちは都の貴族と関係を結び、勢力を強めていきました。有力者のものには、東山道を経由して緑釉陶器や帯飾りなど高価な品々や仏教がもたらされました。緑釉陶器は中国の青磁(越磁)を真似て国内で生産されたもので、有力者たちはこぞって手に入れました。岡田町、栗町など大きなムラでは、硯や海老錠、瓦など役所に関係のある遺物が出土しています。三間沢川左岸遺跡など新しいムラ



46. 奈良三彩 下神遺跡



45. 銅印 三間沢川左岸遺跡



47. 銅鉢 南栗遺跡

も含め、大きなムラが国府の政治を支えていたと考えられています。

仏教の伝来と人々の願い

古墳時代後期に伝来した仏教は都の貴族に受け入れられた後、地方へも広まりました。市内の大村遺跡では大量の瓦と鴟尾の破片が出土し、寺院のあつた可能性も考えられます。市内の有力者たちが仏教を取り入れていた様子が伺えます。

集落遺跡からも仏像や仏具の銅鏡、瓦塔、「卍」や「寺」と墨書された土器など、仏教に関連する遺物が見つかっています。一方で人々の間には、土器に文字を書いて豊かな財産や吉祥を願うまじないもあつたようです。

古代の墓

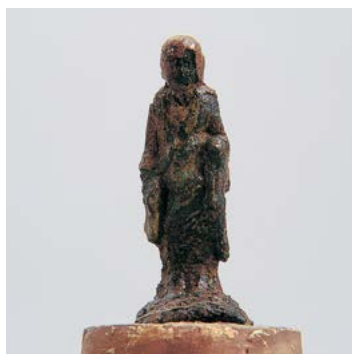
この時代の集落遺跡の調査は数多く行われていますが、明らかな墓の発見例はわずかです。奈良時代まで、市内では有力者たちは祖先の眠る古墳に葬られました。

が、平安時代(九世紀末)には、特別にムラの中に造られるようになります。石上遺跡の木棺墓はムラの中心にあり、上部には石が積まれ、目立ったことでしょう。墓を作ることでできたのは有力者たちだけで、多くの庶民は都と同様に、死後はムラの外に放置されたと想像されます。

開発を支えた人々の生活

彼らは依然として堅穴式住居に暮らし、カマドで煮炊きしていました。個人の食器で食事をとる習慣が広まり、杯の出土量が増加します。磁器をまねた灰釉陶器も九世紀には大量生産され、日常雑器に仲間入りしました。

市内でも鉄の道具が普及し、鎌や鋤・鋤先などの農耕具や紡錘車が鉄で作られます。鉄滓(鉄くず)が出土しています。使い込まれた砥石からも鉄器が日常的に使われていたことが伺えます。



50. 仏像 神戸遺跡



49. 鋤先と鎌 南栗遺跡・平瀬遺跡



48. 海老錠 県町遺跡



53. 焼き損じた須恵器と平瓦 中ノ沢窯跡群



52. 帯飾り 三間沢川左岸遺跡・県町遺跡



51. 円面硯と平瓶 小原遺跡・大輔原遺跡

地域中山の考古学

遺跡の宝庫 中山

考古博物館のある中山には宝庫と言っても良いほど、多くの遺跡が存在しています。中山の歴史を振り返ると、縄文時代は坪ノ内・向畑・山影・南中島など多くのムラが栄えますが、弥生時代には稲作に不向きだったのか、人々はこの地を離れてしまいます。その後、古墳時代には再びムラが作られ、中期以降は古墳群が形成されて墓域としての性格の強い地区も見られるようになります。

奈良・平安時代には埴原南一帯に天皇に献上する馬を育てた、官営牧場の埴原の牧があつたと考えられています。中山霊園内では須恵器窯や木炭窯も見つかり、墓域から生産の場へとその性格を変えますが、不思議なほどムラは見つかっていません。戦国時代には、市内有数の大規模な山城である埴原城が造られました。

中山では古くから遺物が出土しており、人々は考古学に強い関心を持っていました。中山小学校で地元出土品の展示が始まり、一九三一年には中山考古館が開館し、後に現在の考古博物館へと発展しました。考古学に縁の深いこの地に考古博物館は建っています。



考古博物館から望む中山

縄文時代の造形之美



55. 深鉢 雨堀遺跡



54. 深鉢 小池遺跡



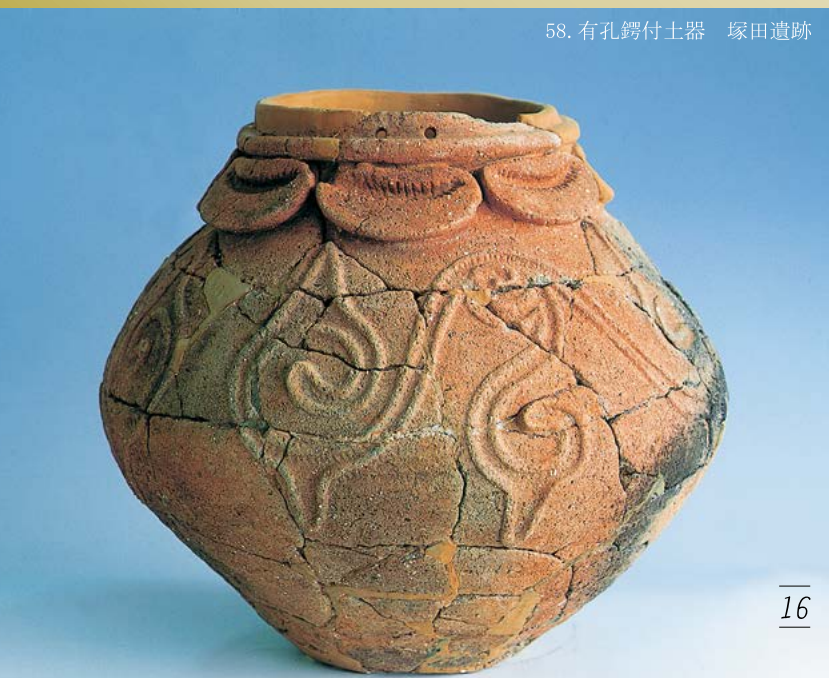
56. 浅鉢 坪ノ内遺跡

縄文時代の人々が生活の中で作り出してきた道具は、現代の私たちの美意識をも刺激します。独創的な模様や精緻な造形をお楽しみみてください。



57. 釣手土器 柳田遺跡

58. 有孔罎付土器 塚田遺跡



59. 土製耳飾り エリ穴遺跡



60. 土製耳飾り エリ穴遺跡

番号	名 称	遺 跡	時 代	指定区分	法量 (cm)
1	土偶	坪ノ内遺跡	縄文時代中期		高10.5
2	土偶	牛の川遺跡	縄文時代中期		高9.6
3	土偶	女鳥羽川遺跡	縄文時代晩期		体長25.0
4	鈎手土器	塚田遺跡	縄文時代中期		高21.0
5	勝坂式土器 (深鉢)	坪ノ内遺跡	縄文時代中期		高33.7
6	有孔罎付土器	一ツ家遺跡	縄文時代中期		高20.5
7	唐草文系土器 (深鉢)	一ツ家遺跡	縄文時代中期		高33.1
8	ミニチュア土器と土鈴	一ツ家遺跡・坪ノ内遺跡	縄文時代		(ミニチュア土器)高5.2 (土鈴)長7.7
9	石皿とすり石	中山出土・坪ノ内遺跡	縄文時代		(石皿)長30.0 (すり石)長9.2
10	打製石斧と磨製石斧	南中島遺跡	縄文時代中期		(打製石斧)長14.5 (磨製石斧)長10.5
11	大珠	中山出土	縄文時代		長6.4
12	石鏃と石錘	雨堀遺跡 小池遺跡・一ツ家遺跡	縄文時代中期		(石鏃)長3.2 (石錘)長5.5
13	焼町土器 (深鉢)	小池遺跡	縄文時代中期		高29.6
14	人面付土版	エリ穴遺跡	縄文時代晩期		長15.4
15	遮光器土偶	エリ穴遺跡	縄文時代晩期		高8.2
16	土偶	エリ穴遺跡	縄文時代後・晩期		(最大)長5.7 幅6.6
17	土器	エリ穴遺跡	縄文時代晩期		高11.2
18	石剣・石刀	エリ穴遺跡	縄文時代後・晩期		長39.7
19	土製耳飾り	エリ穴遺跡	縄文時代後・晩期		(最大)直径9.1
20	遠賀川式土器	針塚遺跡	弥生時代前期	市重要文化財	高26.6
21	刳痕のある土器と石包丁	県町遺跡・宮渕本村遺跡	弥生時代		(土器)高12.6 (石包丁)長20.6
22	磨製石鏃	竹瀨遺跡	弥生時代後期		長4.9
23	百瀬式土器一括	百瀬遺跡	弥生時代中期		高45.1
24	太型蛤刃石斧	宮渕本村遺跡	弥生時代		長17.8
25	石剣と石戈	宮渕本村遺跡・平畑遺跡	弥生時代		(石剣)長15.7
26	鉄鏃	宮渕本村遺跡	弥生時代		長4.0
27	銅鐸	宮渕本村遺跡	弥生時代		長8.9
28	管玉	宮渕本村遺跡	弥生時代		長1.8
29	鏡	弘法山古墳	古墳時代前期	長野県宝	直径11.6
30	ガラス小玉	弘法山古墳	古墳時代前期	長野県宝	直径0.4
31	弘法山古墳出土土器一括	弘法山古墳	古墳時代前期	長野県宝	
32	銅鏃	弘法山古墳	古墳時代前期	長野県宝	長5.4
33	鉄剣・鉄鏃・ヤリガンナ・鉄斧	弘法山古墳	古墳時代前期	長野県宝	(鉄剣)長46.0
34	中山36号古墳の土器と鏡	中山36号古墳	古墳時代前期	市重要文化財	(壺)高21.8 (鏡)直径13.0
35	金銅製天冠	桜ヶ丘古墳	古墳時代中期	長野県宝	長23
36	短甲・衝角付冑	桜ヶ丘古墳	古墳時代中期	市重要文化財	(短甲)高さ41.1 (冑)高15.1
37	水鳥形埴輪	平田里1号古墳	古墳時代中期		高38.6
38	壺鏡	南方古墳	古墳時代後期	市重要文化財	高26.4
39	勾玉	南方古墳	古墳時代後期	市重要文化財	長3.6
40	杏葉と辻金具	南方古墳	古墳時代後期	市重要文化財	(杏葉)長9.5 (辻金具)直径5.1
41	前期の土師器	向畑遺跡	古墳時代前期		(甕)高31.0
42	須恵器	平田里古墳	古墳時代中期		(台付甕)高31.5
43	後期の土師器	出川南遺跡	古墳時代後期		(甕)高38.1
44	煮る・食べる・蓄える	下神遺跡・南栗遺跡・原畑遺跡ほか	奈良・平安時代		(広口壺)高23.2
45	銅印	三間沢川左岸遺跡	平安時代	市重要文化財	高2.8 長3.3
46	奈良三彩	下神遺跡	平安時代	市重要文化財	高3.7 口径3.6
47	銅椀	南栗遺跡	奈良時代	市重要文化財	高5.5 口径13.7
48	海老錠	県町遺跡	奈良・平安時代		長6.4
49	鋤先と鎌	南栗遺跡・平瀬遺跡	奈良・平安時代		(鋤先)長23.2
50	仏像	神戸遺跡	奈良・平安時代		高5.2
51	円面硯と平瓶	小原遺跡・大輔原遺跡	奈良・平安時代		(円面硯)高9.5 口径12.4
52	帯飾り	三間沢川左岸遺跡・県町遺跡	奈良・平安時代		幅4.0
53	焼き損じた須恵器と平瓦	中ノ沢窯跡群	奈良・平安時代		(瓦)幅30.2
54	深鉢	小池遺跡	縄文時代中期		高58.5
55	深鉢	雨堀遺跡	縄文時代中期		高33.8
56	浅鉢	坪ノ内遺跡	縄文時代後期		高16.3
57	鈎手土器	柳田遺跡	縄文時代中期		高27.0
58	有孔罎付土器	塚田遺跡	縄文時代中期		高34.4
59	土製耳飾り	エリ穴遺跡	縄文時代後・晩期		直径5.0
60	土製耳飾り	エリ穴遺跡	縄文時代後・晩期		(最大)直径6.7

参 考 文 献

- 飯田市立上郷考古博物館編・発行 1993『展示概説』
飯田市立上郷考古博物館編・発行 2003 『古墳人のアクセサリー』
大阪府立弥生文化博物館編・発行 2001 『弥生クロスロード』
弘法山古墳発掘調査報告書刊行委員会 1978 『弘法山古墳』 松本市教育委員会
小林 達雄 1988 『縄文人の道具』 講談社
佐々木達夫 1994 『陶磁』 東京堂出版
下条信行 1989 『弥生農村の誕生』 講談社
白石太一郎 1985 『古墳の知識Ⅰ 墳丘と内部構造』 東京美術
玉口時雄・小金井靖 1984 『土師器・須恵器の知識』 東京美術
都出比呂志 1989 『古墳時代の王と民衆』 講談社
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 2003 『律令国家の誕生と下野國 栃木県教育委員会
長野県編 『長野県史』考古資料編全一卷（三） 主要遺跡 中・南信編 長野県史刊行会
長野県編 『長野県史』考古資料編全一卷（四） 遺構・遺物 長野県史刊行会
長野県東筑摩郡本郷村教育委員会 1966 『信濃浅間古墳』 長野県東筑摩郡本郷村
長野県埋蔵文化財センター他 編・発行 1993 『北村遺跡』
長野県埋蔵文化財センター編・発行 1994 『赤い土器のクニ』
町田章 1989 『古代の宮殿と寺院』 講談社
松本市編・発行 1996 『松本市史 第二巻 歴史編Ⅰ 原始・古代・中世』
松本市教育委員会編・発行 1997 『エリ穴遺跡』
松本市教育委員会編・発行 1993『弘法山古墳出土遺物の再整理』
松本市教育委員会文化課編 1998 『新編 松本のたから 受け継ぎ伝える郷土の文化財』松本市教育委員会
松本市中山公民館編・発行 『ふるさと中山縄文のむかしから』第1集
松本市立考古博物館編・発行 1984 『展示解説』
松本市立考古博物館編・発行 1989 『松本平の古墳文化』
松本市立考古博物館編・発行 1990 『信濃における弥生人のくらし』
松本市立考古博物館編・発行 1998 『松本のむかしむかし』
松本市立考古博物館編・発行 2004 『リニューアル記念誌』
松本市立博物館編・発行 2001 『松本まるごとウォッチングQ&A』
村井崑雄 他 1988 『古墳の知識Ⅱ 出土品』 東京美術
山田光洋 1998 『楽器の考古学』 同成社
山中敏史・佐藤興治 1985 『古代の役所』 岩波書店

松本市立考古博物館 展示解説

平成17年3月31日

平成28年3月31日

編集・発行：

松本市立博物館 分館

松本市立考古博物館

〒390-0823

松本市中山3738-1

電話 0263-86-4710

協賛：

印刷・製本 プラルト

©2016 Printed in Japan

松本木立

秀吉陣代物館

